

# 新たな担い手育成と遊休農地の解消について

## 曾爾村農業委員会

### 1. 曾爾村の農業の概要

曾爾村は奈良県の中央部よりやや北よりの東北端に位置し、北は三重県名張市、東は三重県津市、南は御杖村、西は宇陀市に接しています。

村の面積の86%が山林となっている中山間地域で、効率の良い比較的緩やかな農地は村の中央に流れている青蓮寺川沿いに集中しており、両側には棚田が形成されています。水稻の作付けを中心に、標高が高く冷涼な気候を利用した転作による施設野菜栽培（ほうれん草、トマト）を村の特産品と位置付け、生産振興を図っています。しかし、生産コストの上昇、価格の低迷、農家の高齢化等年々厳しい状況にあり、農業生産量の減少傾向が続いています。

### 2. 農業委員会の取り組み

#### ①具体的な取り組み内容

##### (1) 担い手確保への取り組み

近年、特産品である施設園芸野菜（ほうれん草、トマト）の農家数も減少しています。特にトマト農家の減少が顕著であり、産地維持が厳しい現状に直面しています。



曾爾村では、主力農産物であるほうれん草、トマトの産地の維持と生産技術の継承のため、農業研修生を受け入れ、新規就農者の育成に向けた取り組みを実践しています。平成24年度に1名の研修生が施設野菜（軟弱野菜）農家として新規就農し、平成26年度にも施設野菜（トマト）の研修生が新規就農しました。

## (2) 耕作放棄地の発生防止と解消

本村では、高齢化と農家の減少により、耕作放棄地が増加する傾向にあります。農地利用状況調査により発見された耕作放棄地の解消のため、農業委員が積極的に農家や所有者に働きかけ、耕作放棄地の発生防止と再生を推進しています。



指導前



指導後

## (3) 人・農地プランの推進

農業委員会では、各地域で人・農地プラン作成・更新を推進し、地域の担い手の確保、農地の集約化、耕作放棄地の発生防止に向けた話し合いをしています。地域懇談会には農業研修生も積極的に参加しており、地域に溶け込み、人・農地プランの新たな担い手に位置づけられています。



### ②取り組みに当たっての課題

本村は、中山間地域であり、効率の悪い耕地が多く、平坦部に比べ生産性も低いのが実状です。また、生産コストの上昇、農業者の高齢化、担い手不足による耕作者の減少は今後も続くと思われませんが、農地の利用集積が進まず、新規就農者、集落営農組織等の新たな担い手もない状況にある集落が多いことが課題です。

### ③課題への対応方策

今後も新たな担い手の確保のため、農業研修生の受け入れや集落営農組織の育成をしていきます。また、人・農地プランの推進や農地中間管理機構を利用しながら遊休農地を解消し、新たな担い手にも農地の集積を推進して、農業の効率化を図りたいと考えています。